

# 令和2年度 岡山学芸館高校 英語科面接(選抜1期)の講評

岡山学芸館高等学校  
校長 森 健太郎  
英語科長 松本 敦子

実施日：令和2年1月31日(金)

## ◇集団面接

### 1. 概要

面接官2名、受験生4～5名で、日本語と英語による面接を約15分間行いました。日本語では志望理由や留学を希望する理由、英語は実用英語検定3級程度の質問に対する回答と日本の伝統的な事物(初詣やお年玉など)に関して英語での説明を求めました。

### 2. 講評

定番の質問にはしっかりと答えられる人が多かった一方、日本の伝統文化を説明することは難しいようでした。わからないなりに、自分の知っている単語を工夫して伝えられた人もいました。すぐに諦めることなく、伝える意欲を高く評価しました。

## ◇グループディスカッション

### 1. 概要

4～5名のグループで「日本を訪れる外国人留学生のために日本の良さがわかる1日ツアーを企画してください」あるいは「英語が嫌いな小学生のために英語が好きになる1日プログラムを企画してください」を議題に20分間のディスカッションを行い、その話し合った結果をグループごとに1分間で発表しました。

### 2. 講評

評価は①参加・関与②協働③論理性④自己表現の4つの観点で行いました。これは、積極的に参加することはもちろん、他者に配慮してグループとして良い発表となるよう協力し、様々な意見を短時間でまとめて、わかりやすく発表する力を期待し、評価するものです。

受験生の皆さんは開始すぐに積極的に発言を始めるなど高い意欲が感じられました。しかし、他のメンバーの発言を促すなど他者に配慮し、全員で活発に話し合っても、その内容を1分でまとめるのは難しく、惜しくも時間切れで最後まで発表できないグループもありました。一方、ディスカッションの時間内に発表練習までできたグループは1分内にまとめられていました。バランスよく活動できたグループでは終了後に「楽しかった!」という感想が多く聞かれました。

英語科の入試で初めてのグループディスカッションに参加した皆さんは大変緊張したと思いますが健闘されました。このような活動は協働力だけでなく、さらなる学習意欲を高めるものです。今後も学友と語り合い、大いに学び、未来に向けて邁進していきましょう。

以上